グリーン四国

四国森林管理局

四国山の日

高知市丸ノ内１丁目３－30
ＴＥＬ088－821－2052
ＦＡＸ088－821－4834
ホームページアドレスhttp://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/
電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp

No.1122　2013年９月号

「林業専用道技術者研修」及び「准フォレスター研修」開催

林業専用道技術者研修は、愛媛県西条市で7月23日～25日の日程で、准フォレスター研修については、高知県高知市で8月5日～9日の日程で開催されました。 【詳細は2頁】

四国森林管理局　井上業務管理官（次長）激励の挨拶

准フォレスター研修の講義の様子

林業専用道技術者研修現地検討会

平成二五年度「林業専用道技術者研修」及び「准フォレスター研修」始まる

《森林技術・支援センター》

林野庁では、森林・林業再生の取り組みを実現していくため、森林・林業に関する専門的な知見を有する技術者を計画的に育成することとしています。四国森林管理局では、森林技術・支援センターを研修拠点として位置づけ、管内国有林のフィールドを活用しながら「林業専用道技術者研修」、「准フォレスター研修」を実施しています。

講師には、林野庁及び四国森林管理局の担当者をはじめ、大学教授や研究者等の全国的にも著名な外部講師も招き行われています。

【林業専用道技術者研修】

林業専用道技術者研修は、第一回目が七月二三日～二五日の日程で発注者側である県・市町村・国有林の職員を対象に、第二回目が八月二〇日～二二日までの日程で受注者側である設計コンサルタント等の技術者等を対象に、それぞれ西条市のホテルを会場に実施しました。第一回の研修では二一名、第二回目は一六名が受講しました。

班に分かれての路線検討
【林業専用道技術者研修】

林業専用道とは、森林・林業の再生に向けた今後の路網区分のひとつとして、林道を補完し森林作業道と組み合わせて、間伐作業をはじめとする森林施業に用いる道であり、一〇トントラックや大型フォワーダが通行できる規格・構造のものをいいます。その作設にあたっては、地形・地質の面から十分な検討を行い、規格・構造の簡素化を基本にできるだけ地形に沿って作設することとしており、当研修はその設計・監督等を行う人材の育成を目的としています。

研修内容は、林野庁担当官による「林業専用道作設指針の概要」等の講義や、班に分かれて机上で路線検討を行ったうえで、翌日、国有林の既設道に赴き、現地検討を行って共通認識の醸成を図るとともに、カーブ設計の留意点等について実技研修を行いました。最終日には、前日検討した内容をグループ毎に発表、意見交換し、担当講師等による総括が行われました。

研修をふりかえって、色々な立場からの参加があったことから参加者同士でお互い異なる立場における考え方が理解できて有意義であった、急峻な地形が多い四国では林業専用道の設計は難しい等の意見が寄せられました。

現地検討会
【林業専用道技術者研修】

次回の研修は、本年度最後の研修として九月二五日～二七日の日程で行われます。

この研修を受講された皆様の今後のご活躍を期待しています。

【准フォレスター研修】

准フォレスター研修については、八月五日から高知市のオリエントホテル高知において始まり、第一回の研修Ⅰは四国四県から県職員一六名が受講しました。

准フォレスターは平成二三年度から始まっている新たな森林計画制度の下で、市町村が策定する市町村森林整備計画や森林所有者等が策定する森林経営計画について、その認定・実行監理等を支援する県や国有林の職員です。

林野庁では、これらの准フォレスターを育成するため平成二三年度から全国を七ブロックに分け研修を行っており、四国森林管理局においても、三年目となる今年度も研修（全一〇日間を二週に分割）を二回実施することとしています。

開講式の後、当局の井上業務管理官による「森林・林業再生に向けた取組」と「フォレスターの心構え」の講義で始まりました。当研修は、プレゼンテーション力、路網・作業システム、集約化施業と事業体の育成、流通改革の取組、地域の森林・林業の構想、森づくりの構想、木材の流通・販売、林業労働安全、間伐実行監理演習、森林資源循環利用構想策定演習、市町村森林整備計画演習などフォレスターに求められる役割を理解するためのカリキュラム構成となっています。

間伐実行監理演習グループ検討【准フォレスター研修】

森づくりの構想及び間伐実行監理演習では、昨年に引き続き四万十森林管理署管内の新道山等国有林を演習フィールドとして、人工林施業における目標林型や当面の施業方法の検討や森林作業道整備の検討等について現地演習を行いました。

今回の一六名の研修生は一〇月二一日からの研修Ⅱを受講した後、通信研修及び集合研修を受講することとなっています。

准フォレスターとして市町村森林整備計画の策定等の支援業務を行いながら地域の森林づくりの全体像を描くとともに、市町村が行う行政事務の実行支援を通じて、地域の森林づくりと、森林・林業の再生を担う人材となることが期待されています。

また、平成二五年度から認定の「森林総合監理士（フォレスター）」の候補として期待される人材です。

森づくり構想実習【准フォレスター研修】

樹木教室

『学校の樹木へ名札を付けよう』

〈技術普及課〉

七月二八日、「学校の樹木へ名札を付けよう！」（横浜新町まちづくり市民会議主催）と題して高知市立横浜新町小学校において、小学生親子など三五名の参加により実施しました。

このイベントの趣旨は、「学校にある樹木の名前を知ってもらい、自分たちの暮らしと深い関わりのある樹木の役割を家族や地域の方々と楽しく学ぼう。」というもので、まず、校長先生から、「身近にある樹木には多くの働きがあります。私たちができることは、樹木を育て、大切に使うことです。まずは身近な木の名前を覚えてみましょう。」と挨拶の後、技術普及課職員から広葉樹と針葉樹の違いや葉の形状の違いなどを事前に説明した後、二班に分かれて校内にある二〇種の樹木の特徴や名前の由来などを学習しました。参加者は暑い中、真剣に話を聞き、葉を採ってじっくり観察したり、種子を探したりしながらメモをとっていました。

次に、参加者が気に入った木と自分の名前をヒノキを輪切りにしたプレートに書き、きれいに縁取りをしたり、好きなイラストを描くなどして、個性豊かに仕上げ、自らの手で名札を取り付けていきました。選ばれた木は「僕の木・私の木」となり、輝いて立っているように見えました。

樹木名札作製中

子ども達の中には、モミジの種子がクルクル回りながら落ちることや、ヨモギが止血や、水中メガネの曇り止めになる事など、遊びの中からたくさんの知識を身につけているな、と感心させられる子や、名札に「花を大切に」と書いている子もいて、思いやりを感じると同時に今回の趣旨が理解されたのではないかと思われました。

今回、名札を付けた木が、参加者にとって、夏休みの思い出になると共に二〇年・三〇年後も大切な木であるよう願いつつ、イベントを終了しました。

当日、薄曇りではありましたが、大変暑い中参加してくれた子ども達からは、「二学期になったら友達に教えて自慢する。」「葉っぱの違いが学べて、すごく勉強になった。」「地域の方と一緒で楽しかった。」と汗を光らせながら笑顔で意見をよせてくれました。

樹木学習

『親子ふれあい木工教室』開催
コロコロゲーム作製と積木教室

〈技術普及課〉

八月二三日、公募による親子一七組、四二名が参加した「夏休み親子ふれあい木工教室」を、当局の大会議室において実施しました。

この木工教室は、夏休みの研究・学習の支援と身近な自然環境への関心や理解を深めることを目的として、オイスカ高知県推進協議会との共催で、例年、夏休み期間中に小学生とその保護者を対象に開催しています。

まず、当局が森林の役割や森林からの恩恵について、参加者に質問しながら森林教室を行いました。

続いて、森林整備等で発生した広葉樹の小枝などを使って『コロコロゲーム』（トラック）製作に取りかかりました。

コロコロゲーム製作中

細かなパーツが幾つもあり、子ども達はその色塗りに悪戦苦闘していましたが、みんなの個性は炸裂、見るだけでも楽しくなるようなオリジナルの作品が所定の時間内に見事に完成し、どれもすばらしい大作となりました。

当局の木工教室の後は、オイスカスタッフと海外研修生が先生になり、積木教室を行いました。

子ども達は、スタッフのお話を聞いた後、広い真っ赤な絨毯の上に横たわり、スタッフや保護者からバラバラと積木の布団を掛けられ、歓声を上げて喜び、木の温もりを感じた後、保護者も交えて積木遊びに夢中に取り組みました。

上へ上へ高く積み上げる子、几帳面に隙間なく頑丈な橋を作る子、虫や動物を形にする子、様々な積木の造形が完成しました。

最後に、みんなが組み上げた積木がなぜ、どうして作られたかなど、オイスカスタッフが順を追って丁寧に紙芝居で説明すると、子ども達は森林整備のために木を伐ることの大切さを知り楽しい一日を過ごしました。

積み木遊び

夏休み木工見本展を開催

〈技術普及課〉

夏休み期間中の七月二二日から八月三一日まで森林ふれあい館において、OBである正岡氏にお願いし「森からのおくりもの」で作成した木工品（約二〇〇点）や森林鉄道写真の展示と木工教室を開催しました。

木工品は、正岡氏がこれまで作成したものに加え今年になって作成したもの

などで、特に今年は糸電話を応用したジージーゼミが人気で館内は子供達が回す本物さながらのセミの音で賑やかでした。出品されていた力作揃いの作品に、訪れる人みんながその想像力、アイデア、企画力、出来映えに舌を巻いていました。

また、森林鉄道写真を見られたOBの方々は当時を懐かしんでいました。

一方、木工教室には、親子二二組、五九人と昨年の倍以上の親子が作品づくりに励みました。訪れた方々に聞くと、知人からの紹介が最も多く香南市香我美町からの親子や大阪から帰省したお孫さんを連れて来てくれる常連客の方など、今年も大変な賑わいで、子供達は頑張って作った自分の作品に満足気な様子でした。

来年もこういった方々の口コミで益々来場者が増えることを願うものです。

親子に指導する正岡氏

『夏休み森林環境教育』開催

〈技術普及課〉

介良潮見台小学校放課後児童クラブ外九カ所、高知市三里ふれあいセンター外四カ所から講師依頼があり、高知市内の小学生及び保護者約六五〇名を対象に七月二四日から八月二九日までの約一ヶ月間、森林環境教育として、森林教室と木工教室を実施しました。

森林教室では、森林への理解を深めてもらうため、森林の働き・大切さ・恵みをテーマにパネルや間伐材の輪切りなどを使用して説明しました。中には、こちらの質問にしっかり答えてくれる子や、逆に質問をしてくる子など、子ども達の森林への関心の高さに驚かされました。

森林教室（児童クラブ）

その後、森林からの「おくりもの」である、小枝（森林整備から発生した物）及び竹を使っての木工教室を実施しました。

放課後児童クラブは、先生と低学年の児童が主体で、保護者の方もいないことから、事前に各パーツに加工したものを使って『コロコロゲーム』を作成しました。その他に、『森の妖精貯金箱』や『はし置き』等を作成しました。

また、高知市教育委員会が主催した各ふれあいセンターの「親子夏休み木工教室」では、のこぎりや、ナイフを使い小枝等を加工して「はし置き」や「動物車」「ジージーゼミ」などを作製し、特にのこぎりで木や

竹を切るのに悪戦苦闘していました。

その後、木製のむしけん（「ひらがな」けん玉ゲーム）大会などで盛り上がりました。

今回実施した木工教室を、夏休みの宿題の自由研究課題としている小学生もいて、熱心に、「この木の樹種名は、何ですか。」などの質問をされるお母さんもいました。この教室が、がんばって作製した作品と共に夏休みの楽しい思い出となれば幸いです。

この夏休み期間中に、たくさんの児童、先生、保護者の方に森林教室等を実施しましたが、少しでも森林・林業に興味を持って頂き、森林を大切にする気持ちを持ち続けて欲しいと願っています。

親子仲良く木工作製
（高知市のふれあいセンター）

各地のたより

森林教室「木工クラフト」を実施

〈徳島森林管理署〉

八月一日、徳島市の佐古児童館で小学生など五〇名を対象とした森林教室と木工クラフトを行いました。

森林教室では、森林には、水を貯えることや、空気をきれいにする働きがあること、また、森林には、多くの動物が住んでいることなどをパネルを使って説明しました。

木工クラフトでは、子供たちが作製したのは、間伐材を使用した「鉛筆立て」と「木の枝を使った鉛筆」です。

「鉛筆立て」は、ボンドで板を貼り合わせて基本の型を作ります。飾り付けは子供たちが、自由に行います。

飾り付けの材料は、森からの贈り物である、ドングリや松ぼっくり等を含め、また、自作のマスコットや太陽の形に切った板などのほか、カラフルなマグネットシートも使って思い思いに鉛筆立てを飾り付けていました。なかには飾りが多すぎて鉛筆を立てるスペースが埋まってしまった鉛筆立て等もありました。

「木の枝を使って作製する鉛筆」は、木の枝に穴を開け芯を差し込んで作ります。当日は、芯を入れる穴が少し狭くなりきつくなっていたため、みんな苦労して芯を差し込んでいましたが、枝先を尖らせて鉛筆らしい形になると満足げに鉛筆立てに立てていました。

作製された作品を見てみますと、それぞれ創意工夫をこらしたオリジナルの「鉛筆立て」&「小枝の鉛筆」が完成していました。

子供たちもその出来映えに、大喜びでした。

今回、参加してくれた子供たちは普段、木で物を作

ることは全くないそうですが、今回の木工クラフトをとても楽しんでくれたようで、機会があれば別の物を作ってみたいと言っていました。木材の利用を増やすためは木材を使う人の裾野を広げることが大切ですが、今回の教室がその足がかりとなったのではと思います。

職員の指導で「鉛筆立て作製中」

森林教室「木工クラフト」を実施〈徳島森林管理署〉

八月二〇日、徳島市の加茂児童館で小学生など二七名を対象とした森林教室「木工クラフト」を行いました。今回子供たちが作製したのは、徳島県産間伐材を使用した写真立てと木の枝や木の実を使った動物マスコットなどの飾りです。

最初に森林の働きとして、森林には、なぜ沢山の動物が住めるのかなどの話をしたあと、写真立ての作製にとりかかりました。子供たちは写真立てを作り終わると、次々に動物のマスコットに取りかかっていました。マスコットは自分で作る物を決めて部品を選ぶので、材料を置いたスペースの前で部品を仮組みしたりしながら思い思いの部品を取って、いろいろな物を作っていました。こちらが準備した動物以外にも、ネコやウサギ、鳥、カメ、タヌキ、コアラ、ロボット、モンスターなど、多彩な作品ができあがっていました。ノコギリを使ったことがない子供もいて、枝を切るのに苦労していましたが、切り終わって部品ができるとうれしそうにしていました。また、今回来れなかった自分の兄弟にお土産を作っている子供も数人いたり、「次はいつ？」とか「来月はやるの？」と聞いてきたりと、木工クラフトをとても気に入ってくれたようでした。

最近、子供たちが木に触れる機会がとても少なくなっていますが、子供たちにとっては機会が無いだけで、実際にやってみると楽しいと感じるということを再確認できました。当署としても今後も継続して木に触れる機会を設け、木を身近に感じてもらえるよう取り組んでいきたいと考えています。

オリジナル写真立て作製中

防災ヘリ救助訓練に参加〈徳島森林管理署〉

八月二二日、徳島県美馬市中尾山において、防災ヘリ救助訓練が行われました。

これは、林業木材製造業労働災害防止協会徳島県支部が主催し、徳島県内の森林組合や行政、消防関係者ら一五二名が集まり、当署からも一八名が参加しました。

午前中は、大径木の伐採・造材技術の講習を受

けました。胸高直径七二センチのスギをくさびを使わず、ジャッキを利用して伐倒しました。講師いわく『ジャッキを使えば、くさびを打つ体力の消耗を防ぎ、伐倒時間も短縮できる』ということでジャッキを使った伐採をお勧めするということでした。

次に、防災ヘリでの救助を想定した訓練では、あいにく当日の朝に防災ヘリが修理点検を行うことになり、防災ヘリの参加は中止となりましたが、県消防防災航空隊から、ＧＰＳなどで場所の特定、風船や発煙筒等でヘリに災害ポイントを知らせるなど、ヘリが救助するために必要な内容を指導して頂きました。

昼食後は体育館で美馬市消防署の職員に救助技術を教わりました。

班に分かれて、心肺蘇生法を参加者全員がマネキンを使って実践しました。

ヘリが来られなかったのは残念でしたが、日頃行えない訓練であり、参加者は真剣な眼差しで講師の話に集中していました。

県内の林業関係者を集めてという有意義な訓練であり、重大災害はもとより林業労働災害が起きないように訓練の成果を生かせればと思います。

ジャッキを使った伐倒訓練

不入山森林学習会と不入渓谷ウォーキング

〈四万十森林管理署〉

津野町郷地区地域活性協議会と津野町の主催による「不入山森林学習会」および「てっぺん四万十裏源流　爽快！不入渓谷ウォーキング」が開かれました。

この催しは、同協議会が地域おこしの一環として、地域のシンボルである四万十川裏源流のある不入渓谷をフィールドとして地域の活性化に取り組んでいます。この度、不入山を管轄している当署に対し、不入山の植生や歴史等について講義をしてほしいとの依頼を受け、当署職員が二名参加しました。

七月二七日に開催された、「不入山森林学習会」には、地域の方々や小学生など約五〇名が、王在家多目的集会所「平成館」に集まり、不入山が土佐藩の御留山として扱われた時代から森林軌道が敷設されていた当時の森林管理や木材生産の歴史や不入山の主な植生などについて座学を行ったあと、貴重なコウヤマキの原生林である「小筋畝山コウヤマキ遺伝子保存保護林」へ登りました。

参加者は、登山道の途中にあるヤブニッケイやケクロモジのさわやかな香りや、スイシバの酸味を楽しんだり、ちょうど咲き始めたヒガンバナ科のキツネノカミソリの群生地を眺めながら、登山道の一部になっている森林軌道の跡を散策しました。

コウヤマキ純林の林内では、独特のなんともいえないフカフカした林床の感触やコウヤマキの温かい木肌を感じ、心地よい森歩きを楽しみました。

森の奥まで足を延ばしてみると、さらに豊かなコウヤマキの純林が広がり、深さを増した林床の感触や一番大きな大王コウヤマキに触れて歓声をあげていました。

コースの途中にある不入

渓谷と四国カルストを一望できる「ムササビ岩」では、さわやかな森の風を感じたり、ムササビの巣を確認することもできました。

今回は、子供たちが多く参加し、いろいろなことを素直に感じることができる幼い頃に、郷土の自然や森に触れるという体験は、将来大人になっても地元に誇りを持ち続けながらたくましく生きていくことができる心の支えになることだろうと思います。

また、八月二五日に開催された、「てっぺん四万十　裏源流　爽快！不入渓谷ウォーキング」は高知市内を中心に五〇名の参加者がありました。

当日はあいにくの雨模様で、小筋畝山の登山は断念しましたが、不入山に係わる森林学習の後、地元に残る四万十川文化的景観の一つである口目ケ市の古民家群や茶畑を通り、不入山林道にある森林軌道の遺構が残る「不入開山隧道」までをウォーキングしながら散策し、自然豊かな不入渓谷を満喫しました。

不入山開山隧道

クロモジでお箸作り

昼には地元食材をふんだんに使ったバイキング料理でお腹を満たしたあと、クロモジやサクラを材料にした木工クラフトでお箸などを作り、木の温かみや香りにふれあいながら、晩夏の一日を楽しく過ごしました。

この企画を通じて、地元の方々や市街地からの参加者の皆様が、森林や国有林に対する理解や関心がより一層深まることを期待しています。

「芸西村親子木工教室」〈安芸森林管理署〉

八月四日、高知県芸西村村民会館において村内の幼稚園児～小学生及びその保護者六二名を対象に親子木工教室を開催しました。

始めに当署職員から、間伐を実施する事によって、健全な森林を育て二酸化炭素吸収量を増やし地球温暖化防止に役立っていること、間伐された木は生活の色々な所に使われ役立っている事を説明し、森林の大切さをアピールしました。

その後、壁掛け、小物入れの製作にとりかかり、親子で協力しながら楽しそうに作っていました。のこぎりや金槌を初めて使う子も多く、「手が疲れた」と言いながらも器用に使いこなしていました。

その後、木の枝や実、パーツなどを使い自由に飾りつけを行い、子供らしい作品から大人顔負けの作品、オリジナリティーあふれる作品が完成しました。

子供たちは満足いく作品ができたようで「早く家に飾りたい」「おばあちゃんに見せてあげたい」等笑顔で喜んでいました。

この企画は恒例行事になっており、参加してくれた子供たちが森林や木材に興味を持ってくれるよう、

今後も工夫して実施していきたいと思います。

お父さん、しっかり押さえておいてね。

「チャレンジアドベンチャーワールド段ノ谷山登山」〈安芸森林管理署〉

八月二一日、高知県室戸市のNPO法人夢創房室戸迎鯨の杜（ゆめそうぼうむろとげいげいのもり）主催の「チャレンジアドベンチャーワールド」の段ノ谷山登山に当署職員五名が参加しました。

「チャレンジアドベンチャーワールド」は八月二〇日～二二日の三日間に、小学生三二名が室戸の海、山、川を体験する催しで、段ノ谷山には変わった形の天然スギがあり、それぞれに「大魔王杉」「火炎杉」「大杉」など、形から想像した名前を付けられており、室戸世界ジオパークサイトの一つでもあることから、二日目の行事として実施されたものです。

まず、登山前に段ノ谷山で一番雄大な「大杉」の根廻りの大きさを体感してもらうため、根廻りと同じ長さのロープの中に入ってもらいました。全員入ってもまだ余裕があり、子供たちはこんな大きな木がある事が信じられないようでした。

「大杉」の根廻りの大きさ体験

登山は三班に分かれ、当署が作成した「段ノ谷天然杉ガイドマップ」「樹木の話」「バードコール」を使い、樹木の見分け方、天然スギの名前の由来などを説明しながら登って行きました。

参加者の殆どが登山経験がなく、少し登っただけで「帰りたい」「疲れた」「まだ行くの？」などの弱気な発言が聞かれましたが、初めて見る天然スギに「うわ～大きい」「どうしてこんな変わった形になるの」「何メートルくらいあるの」など疲れも忘れ見入っていました。

「大杉」では登山前に体感した大杉の大きさと実物を比べてもらいました。やはり実物は想像より大きかったみたいで子供達は大きな歓声をあげていました。

下山後は、当初予定していたコースの半分も歩いていないことから、「体力をつけるため、ゲームばかりでなく、外で遊んで体力をつけるように、また、樹木に興味が湧いたなら家の近くの樹木を観察して下さい」とお願いし、段ノ谷山登山を終了しました。

「大杉」の下で